



体育授業で子どもが笑顔に そして先生も笑顔に

保健体育講座 宮尾 夏姫 准教授

「運動嫌いの子どもの減らしたい」。体育を専攻し教職を目指す学生が言いがちなひと言。大学3年生の私は、このひと言だけを携えて体育科教育学研究の門戸をたたきました。とても曖昧で、抽象的なテーマしか持っていなかった当時の私は、十数年後の自分がまさか体育科教育学研究室で学生の指導に当たることになるなんて想像もしていなかったことでしょう。そして、今、体育授業について研究したい、運動指導について研究したいという志を持つゼミ生たちに向かって「具体的にどうしたいのさ?」「うーん、もっと伝わるように説明してよ」と自分が恩師に言われた言葉を口にしていて、思わず笑いそうになることもしばしば…。

「すべては子どもの笑顔のために」

私が学部・大学院時代に所属していた研究室のボスは、以前、この奈良教育大学で教鞭をとっておられました。奈良県の多くの先生方と共に良い体育授業を追究されました。そのボスが、いつも口にされていた言葉が「すべては子どもの笑顔のために研究・実践するんだよ」。体育科教育学の究極の目的は、「体育科教育実践の改善、より良い体育授業の実現」です。そして良い体育授業の実現が向かう先は、いつだって子どもを笑顔にすることにあります。できないことができるようになること、友達や仲間とその喜びを共有することなど、一次体験を常に提供することは体育科の大きな特徴の一つです。その分、技能差が苦手意識を持つきっかけとなり、その結果、体育授業さらには運動に対する「嫌い」を生み出してしまうことも多いわけです。

体育教師教育という 研究と授業がリンクする瞬間

「運動嫌いの子どもの減らしたい」とひと言で言っても、そのアプローチは様々です。カリキュラム、指導／学習内容、指導／学習方法、教材開発、教師行動など…。私は、指導教員とのやり取りから教師教育というアプローチで上記のテーマに取り組むことにしました。特に、小学校体育授業の改善に向けた教師の学びについて、現在も研究を進めています。我が国の小学校の先生方は、全教



体育科教育学研究のメンバー。定期的に誕生日をお祝いしています



科を担当しています。教員養成段階でも、全教科の教科内容に関する授業と、指導法に関する授業を履修して学ぶことになります。15回の授業×2科目(4単位およそ180時間)で小学校の体育科について学び、授業をすることになるのです。その一方で、中学校あるいは高等学校の保健体育科の教員免許状を取得するためには、およそ1,440時間(32単位)の専門的な授業を履修して学びます。小学校の教員免許状に加えて、保健体育科の教員免許状を取得するということは、それだけ体育科に関して専門的に学ぶことになります。全国の小学校教員のうち、保健体育科の教員免許状を所有している教師は、およそ7%と報告されています。つまり、多くの小学校教師は教員養成段階では体育授業に関する学びの機会が少ない状況にあります。

私が担当している授業の一つ「初等教科教育法(体育)」を受講している学生さんの中にも、「私は体育の授業が苦手です」「運動が苦手なので体育授業をするのが不安です」と正直な胸の内を明かしてくれる方がいます。これは学生に限らず、同様の不安を打ち明けてくださる現職の小学校の先生に出会うことも多いのです。そうした先生方も「子どもたちは体育が好きだし、子どもたちが楽しく学ぶことのできる授業をしたいんです」という想いを持っておられます。このように「体育授業をなんとかしたい」と思いながらも「何を、どのように指導すればよいか」と困っておられる先生方の体育授業をサポートすることで、より良い体育授業実践につなげ、その結果、多くの子どもの笑顔あふれる授業になればとの考えから研究に取り組んでいます。そのため、私にとって研究と授業は強く関連するものであり、自分の研究テーマ「ど真ん中」の授業を担当できることを日々幸せに感じています。



勉強会の様子。研究テーマについて議論は深まっているのか…??

研究室の取り組み

体育科教育学研究室では、冒頭で述べたように体育授業について研究したい、運動指導について研究したいという学生が所属しています。私が2021年度に着任したため、現在は3回生4名が1期生として頑張ってくれています。2021年度前期は、本を読んだり、論文を読んだり、現職の先生方の研修会に参加したりと主にインプットをメインに取り組みました。こうした取り組みの中で得た各自の疑問を研究テーマにつなげていくために、後期は、各々の問いについて先行研究を読み、議論を重ねています。

加えて、後期は、これまでに開発・提案されてきた多くの教材を実際に行ってみて教材のねらいや工夫について考える勉強会も行っています。この時間は、大学院「教材開発研究」を受講する大



教材研究勉強会の参加に学年や研究室は関係ありません。



クローズアップ+

学院生も一緒に体育科の教材について検討しています。右記の写真の日には、本学附属小学校の体育科の先生方が開発された「かべバスバスケットボール」や「フロアキックボール」を実践しました。また、研究室メンバーと大学院生だけでなく、保健体育専修の1回生～大学院生まで多くの学生が自主的に参加してくれており、研究室や学年の垣根を超えた学びの場になっています。運動の本質的な面白さが垣間見えたと同時に、体育科という教科の価値を改めて問い直す時間にもなっています。

かべバスバスケットボールの実践



あつまりっこベースボールの実践

プロフィール



保健体育講座

みやお なつき

宮尾 夏姫 准教授

筑波大学大学院修士課程教育研究科教科教育専攻 修了 修士(教育学)
2020年本学着任。2021年より現職。

ゼミ生からの研究室紹介

宮尾研究室には、現在、4名の学生(3回生)が在籍しています。

今年度の前期は、論文の読み方、質疑応答する力など基礎的なことを学びました。また、夏休みには、身近なものを使って教具を手作りしたり、他大学の先生方からプログラミング学習や授業研究についてご講義いただく機会も持つなど多様な活動に取り組んでいます。後期は、研究についての議論に加えて、教材を実践して学ぶゼミ活動もしています。

体育科教育学研究は、教師、児童生徒、あるいは、体育授業づくり全体など多角的な視点から学校現場の体育授業を考察します。自分の過去の経験から疑問点が

浮かんだり、教育実習に行ってみて新たに感じたことだったり、身近なことから学びを深めることができます。

今年度からスタートした宮尾研究室は、教材に触れながら、他者との対話を行うことで、自分の考えを深めることができる、魅力ある研究室です。

教育学部
学校教育教員養成課程
教科教育専攻
保健体育専修 3回生
奈良育英高等学校出身

ふじの ゆうや
藤野 雄哉さん



※学生の所属表記は令和3年度時点です

